

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05222	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	原始惑星系円盤形成領域の化学組成とその進化	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	山本 智 (東京大学・大学院理学系研究科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、ALMA 電波望遠鏡による観測と実験室での分子分光実験を通して、惑星系のもととなる円盤構造が形成される過程での物理・化学進化を解明するものである。

研究代表者が提案した ALMA の大型観測プログラム FAUST (Fifty AU STudy of the chemistry in the disk/envelope system of Solar-like protostars) が国際パネルで採択され、本研究に必要な観測データが取得されている。既に原始星円盤での Warp 構造の発見をトップレベルの学術誌で発表されるなど、大きな科学的成果を上げている。また、当初想定していなかった問題への対応も十分行われており、研究は順調に進んでいると判断できる。今後、観測研究だけでなく、理論研究や実験研究などを通して当初の目標を達成するとともに、惑星科学分野など幅広い分野への波及が望まれる。